

# 大震災における太陽光発電の自立運転活用アンケート結果

調査担当：NPO 法人太陽光発電所ネットワーク 埼玉地域交流会

3月11日、未曾有の大震災が東日本を襲い多くの方の被災が報告されました。被災された方々にお見舞い申し上げます。PV-Netでも東北のPV関連の被災状況の調査を行うなど、今回の大震災の影響の調査を行っておりますが、PV-Net埼玉地域交流会では、埼玉の会員を対象に震災に関するアンケートをお願いし、PVの被害状況や自立運転の活用状況を調査しました。ご協力頂いた会員の方々にお礼申し上げます。

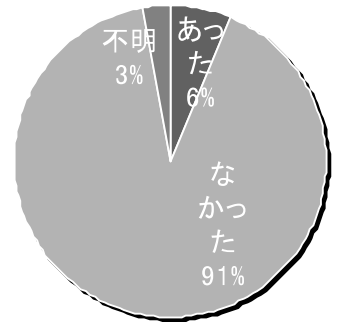
- ・アンケート実施時期：4月10日～5月15日
- ・依頼会員数：192名
- ・有効回答者数：110名（有効回答率57%）

## ① 住宅への被害

埼玉県東部の利根川沿いの地域などでは、液状化の被害も報告されていましたが、会員宅でも6%の方が住宅への被害があったと報告されています。地域としては、上里、鴻巣、幸手、加須、上尾、朝霞、川越で、やはり県北東部での被害が多い結果となっています。

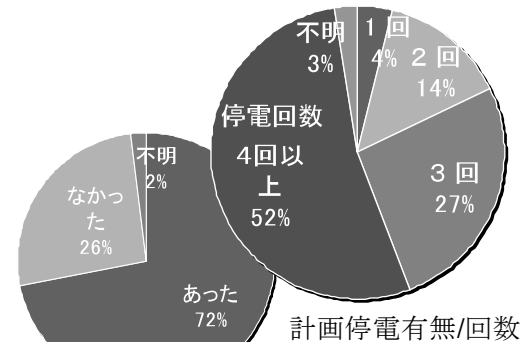
被害の内訳としては、屋内3、屋根・壁1、不明その他3で、PVへの被害は報告されなかった。

住宅への被害



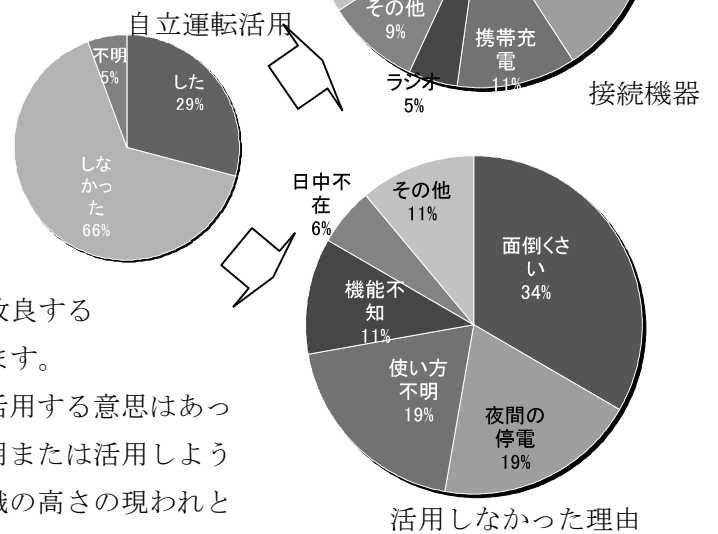
## ② 計画停電

計画停電の除外地域もあり、約3/4の会員の方が計画停電を体験した。停電があったと答えた方のうち、9割以上で複数回の停電が実施され、約半数で4回以上の計画停電が実施されました。停電の対象地域では繰り返し実施されたことがわかります。



## ③ 自立運転の活用

自立運転にトライした方は約3割に留まり、自立運転の活用が定着していない実態が浮き彫りになりました。自立運転を活用しなかった方の理由としては、面倒くさいが34%でトップでしたが、使い方不明、機能不知などと合わせ、使い方が十分周知されていないことやユーザーフレンドリーでないことによる不使用が64%にのびました。もしものときに使うことを考えた場合、パソコン周辺に使用方法を掲示しておくことが必要と思われます。メーカーごとやパソコンの年代ごとに使用方法にも違いがあり、それぞれのケースに対応した自立運転の簡単手引きの作成が望まれます。



また、これら不使用の理由が将来、パソコンを改良する際の検討項目として、取り上げられることを望みます。

しかし、停電が夜間などの理由で、自立運転を活用する意思はあっても活用できなかった方を含めると、半数弱が活用または活用しようとしていた結果になっており、PV-netの会員の意識の高さの現われとも言えます。

自立運転を活用した際の接続先については、冷蔵庫、テレビ、携帯電話の充電と実用的な使用方法が上位を占め、なかにはトースターを試した方もおり、単独であればさまざまな家電が使用可能であることが

実証されました。

#### ④今夏の停電・節電策

会員の皆様の停電・節電に対する対策のご意見を集計した結果は右の表様になりました。(意見数で集計しており、一人の方から2項目以上の回答を頂いた場合は、別々に集計しています)

冷蔵庫やエアコンの温度設定、緑のカーテンに取り組まれている方が多くいらっしゃいましたが、ひたすら耐えると答えられた方を含め、全体の8割くらいのかたが、とにかく節電に取り組まれていることが分かりました。非常用バッテリーを準備される予定の方も7名おり、会員のかたが停電対策にも積極的に取り組まれている様子が見えてきました。ただ、会員の年齢層が高く精神論だけでは済まない部分もあり、いかにPVと節電策を効果的に活用するかが、今後の大きな課題と感じました。

停電・節電策	意見数
節電(エアコン/冷蔵庫温度、LED照明、扇風機等)	19
緑のカーテン	10
特になし	9
自立運転	9
非常電源(車用バッテリー等)	7
窓に日除け(よしず他)	2
早寝早起き	2
あらゆる点で努力・工夫する	2
PV新設	1
クーラーボックスと保冷剤	1
ひたすら耐える	1
洗濯は早朝に	1
夜間ソーラー式照明を活用	1
エアコンなしだめ。困る。	1
総計	66

以上